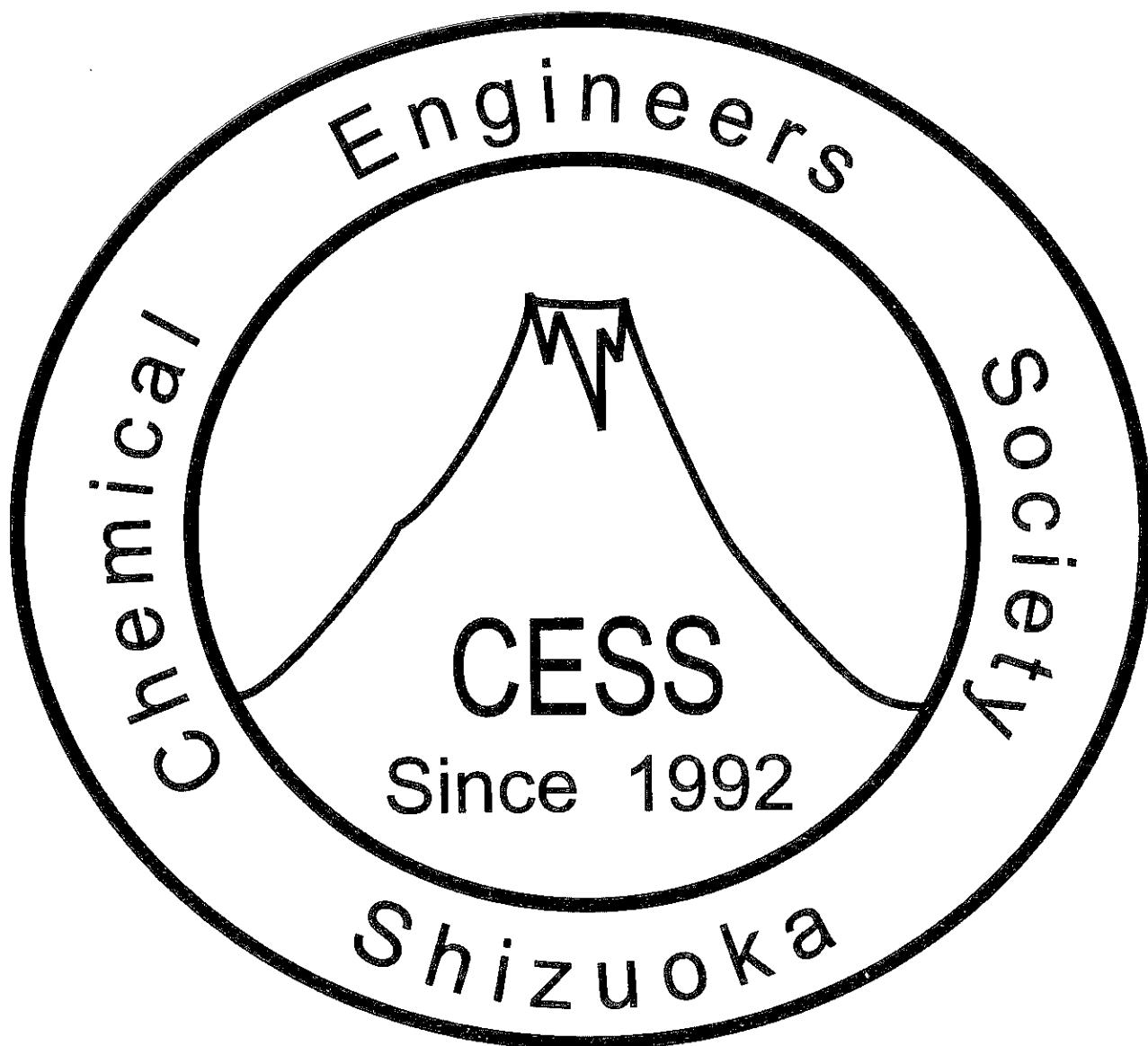


静岡化学工学懇話会

会報

第27号



目 次

ご挨拶 静岡化学工学懇話会 会長（平成 30・令和元年度） 金原和秀.....	1
平成 30 年度（2018 年度）事業報告.....	2
平成 30 年度（2018 年度）総会、第 53 回静岡コロキウム・見学会 項末記.....	6
第 26 回静岡フォーラム・第 51 回研究交流セミナー 「ファインバブルの科学：目に見えない泡が拓く新しい世界」 項末記	9
第 25 回企業技術交流会 項末記.....	12
第 54 回静岡コロキウム 静岡県東部精密技術研究会第 84 回研究会 「水素を用いたモビリティ・分散電源に向けた エネルギーキャリア技術」 項末記 ..	15
役員名簿（平成 30・令和元年度（2018・2019 年度））	18
令和元年度（2019 年度）事業計画.....	19
会員企業ルポ 24th	22
静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介	25
会員名簿（平成 31 年（2019 年）4 月 26 日現在）	26
静岡化学工学懇話会 規約	30
入会のご案内	
静岡化学工学懇話会 法人会員 入会申込書	
静岡化学工学懇話会 個人会員 入会申込書	

編集後記

ご挨拶

静岡化学工学懇話会

会長（平成30・令和元年度）金原和秀



平成31年から令和元年となり、2つの元号をまたぐ会長となりました。私事ですが、元号が始まる5月1日は、ジュネーブで、化学物質・廃棄物に関する国際条約の締約国会議に出席していました。その日の会議の冒頭に、議長から元号が変わったことを祝福する言葉があり、祝賀の雰囲気がありました。国際的にも認知されているのかという感慨がありました。

さて、出席した会議は、「バーゼル条約」、「ロッテルダム条約」、「ストックホルム条約」の3条約の締約国会議で、金原はストックホルム条約の「残留性有機汚染物質（POPs）検討委員会」委員になっています。先日新聞でも報道された、日本とノルウェーの共同提案である、汚れたプラスチックごみの条約規制対象への追加などが採択されました。国際条約の会議への出席は初めての経験でしたが、国際的取り決めがどのように決められていくのかをつぶさに見聞きすることができました。朝から夜の10時、11時まで会議が続き、国の駆け引きが展開され物事が決まっていく、その内容は極めて人間臭いものでした。日本は発言こそ少ないですが、その意見は尊重されている感じで、これは、外務省の方々を中心に、水面下での努力があってのものであると実感することができました。

議論の中で、化学工学を専門とする我々にとって重要な話題がありました。今回採択された汚れたプラスチックごみだけではなく、PCBや農薬など条約で廃棄が決まっている物質の管理・分析や処理に関して、発展途上国から技術援助が求められているということです。先進国から大量の廃棄物が送られ、それらが汚染を引き起こしている現状、使用が禁止されたPCBや農薬が処理できないで放置されている現状、182か国の締約国が多くが発展途上国であり、それらの国々が盛んに技術援助を要請していました。日本は、公害問題の経験から、環境汚染物質の管理や処理技術、廃棄物の処理技術が発達し、世界的にも最先端の技術を持っています。化学工学はそれらの技術開発に重要な役割を果たしてきました。この技術を世界に発信していくことが、今後ますます重要ではないかと思いました。

地域から世界へ、化学工学的思考で築いてきた技術力を通じて世界に貢献し、自らも発展していく、この循環が次世代に続いていくように努力していきたいと思います。会員の皆様のご協力とご支援を今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年度（2018 年度）事業報告

主催行事

（1）役員会、総会

開催日：平成 30 年（2018 年）6 月 8 日（金）

会 場：静岡県農林技術研究所（磐田市）

内 容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定

参加者：16 名

（2）第 53 回 静岡コロキウム、見学会

開催日：平成 30 年（2018 年）6 月 8 日（金）

会 場：静岡県農林技術研究所（磐田市）

内 容：講演 1 件、見学

参加者：27 名

共 催：化学工学会東海支部

（3）第 26 回 静岡フォーラム／第 51 回 研究交流セミナー

開催日：平成 30 年（2018 年）12 月 14 日（金）

会 場：アクトシティ浜松 コングレスセンター

テーマ： ファインバブルの科学：目に見えない泡が拓く新しい世界

内 容：講演 5 件

参加者：76 名（うち学生 15 名）

共同主催：化学工学会東海支部

後 援：ファインバブル学会連合、日本化学会東海支部、日本油化学会東海支部、有機合成化学協会東海支部、静岡大学食品・生物産業創出拠点、ファインバブルものづくり研究会

協 賛：静岡大学産学連携協力会

（4）第 25 回 企業技術交流会

開催日：平成 31 年（2019 年）2 月 26 日（火）

会 場：静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館

テー マ：社会で役立つ化学工学的思考

内 容：講演 1 件、ポスター・製品展示・ショートプレゼンテーション

参 加 企 業：13 社

参 加 者：95 名

協 賛：静岡大学食品・生物産業創出拠点

（5）第 54 回 静岡コロキウム/第 84 回 研究会

開催日：平成 31 年（2019 年）3 月 18 日（月）

会 場：矢崎総業株式会社 Y-City ワールドヘッドクオーターズ第一ホール

テー マ：水素を用いたモビリティー・分散電源に向けたエネルギー・キャリア技術

内 容：講演 3 件、見学

参 加 者：65 名

共同主催：静岡県東部精密技術研究会

共 催：化学工学会東海支部

出版事業

（1）第 26 号 会報発行（平成 30 年（2018 年）6 月 8 日）

共催・協賛・後援行事

（1）[協賛] 特別講演会

開催日：平成 30 年（2018 年）5 月 7 日（月）

会 場：ファルマバレーセンター（駿東郡長泉町）

主 催：静岡県東部精密技術研究会

(2) [共催] 第42回 基礎化学工学演習講座

開催日：第0クール 平成30年（2018年）5月16日（水）から5月18日（金）

第1クール 平成30年（2018年）6月20日（水）から6月22日（金）

第2クール 平成30年（2018年）7月 4日（水）から7月 6日（金）

第3クール 平成30年（2018年）7月11日（水）から7月13日（金）

第4クール 平成30年（2018年）7月25日（水）から7月27日（金）

会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

主 催：化学工学会東海支部

(3) [共催] 第5回初歩からの化学工学数学演習講座

開催日：平成30年（2018年）11月16日（金）

会 場：イオンコンパス名古屋駅前会議室（会議室C+D）

主 催：化学工学会東海支部

(4) [共催] 第14回 東海地区分離技術講演会

開催日：平成30年（2018年）11月20日（火）

会 場：名古屋工業大学 鶴舞キャンパス 323教室

主 催：分離技術会

(5) [共催] 第52回 化学工学の進歩講習会

開催日：平成30年（2018年）11月29日(木)、30日(金)

会 場：名古屋大学 VBL3F・ベンチャーホール

主 催：化学工学会東海支部

(6) [後援] 第49回 研究会

開催日：平成30年（2018年）12月10日（月）

会 場：アクトシティ浜松 コングレスセンター

主 催：静岡大学食品・生物産業創出拠点

(7) [協賛] 第104回講演会

開催日：平成31年（2019年）1月21日（月）

会 場：JSR 株式会社 四日市研修センター

主 催：化学工学会東海支部

(8) [協賛] 第4回信州コロキウム

開催日：平成31年（2019年）1月25日（金）

会 場：信州大学繊維学部（上田キャンパス）

総合研究棟7階ミーティングルーム1

主 催：化学工学会東海支部

(9) [協賛] 第38回東海地区見学講演会

開催日：平成31年（2019年）3月20日（水）

会 場：株式会社 三進製作所（愛知県犬山市）

主 催：分離技術会

平成 30 年度（2018 年度）総会、 第 53 回静岡コロキウム・見学会 項末記

平成 30 年（2018 年）6 月 8 日（金）13：00～16：40、静岡県農林技術研究所（静岡県磐田市富丘 678-1）において、「平成 30 年度（2018 年度）総会」および「第 53 回静岡コロキウム・見学会」が開催されました。参加者数は、28 名でした。

総会では、村松瑞夫会長の挨拶の後、平成 29 年度（2017 年度）の事業報告がされました。次に会計報告および監査報告があり、承認されました。その後、平成 30・31 年度（2018・2019 年度）の会長として役員会で候補者として推薦された金原和秀氏（静岡大学）を満場一致で承認され、金原新会長のご挨拶をいただきました。さらに、平成 30・31 年度（2018・2019 年度）役員に関しても承認されました。また、平成 30 年度（2018 年度）の事業計画および予算案が報告され、承認を得ました。最後に、会誌 26 号が紹介されました。

総会に引き続き、第 53 回静岡コロキウム・見学会が開催されました。最初に、静岡大学情報学部情報科学科の峰野博史教授より「AI を用いた植物との対話への挑戦」との題目でご講演をいただきました。トマトの栽培において、水分ストレス（渴き状態）であるしおれ具合を高度に推定・予測できるようになり、この技術を使用することにより、適切な時期に適切な量の灌水が可能となり、品質制御や節水栽培に適用できるになります。このような農業 AI の支援による革新的農産物栽培方法の確立は、次世代へ効率的にノウハウを伝えることができ、日本の農業において革新的なものであると思われます。

岡あつし農林技術研究所長のご挨拶の後、研究所における研究が 2 件紹介されました。

1 件目は、植物保護・環境保全科の片山晴喜科長による「光を利用した害虫防除技術の開発について」では、紫外線 UV-B でイチゴのハダニを防除する技術や赤色光を植物体に照射した害虫防除方法（特許出願）が紹介されました。2 件目は農業ロボット・経営戦略科の山根俊上席研究員による「農林技術研究所における農業機械関連研究の紹介」では、農業用自立走行ロボットやレタス・タマネギの収穫機が紹介されました。その後、研究紹介の関連した研究所内の施設の見学を行いました。

コロキウム・見学会が終了した後、凜や（磐田店）で懇親会が開かれました。金原会長の挨拶と乾杯のご発声の後、参加者による活発な情報・意見の交換が行われ、交流を深めました。最後に、松本豊副会長のご挨拶と一本締めて、盛会の内に終了しました。

ご講演いただいた峰野博史教授および会場をおかりいたしました農林技術研究所の岡所長、企画調整部の山田部長、植物保護・環境保全科の片山科長、農業ロボット・経営戦略科の山根上席研究員をはじめ研究所の皆様に深く感謝申し上げます。

（静岡大学 前澤昭礼 記）



第26回静岡フォーラム・第51回研究交流セミナー

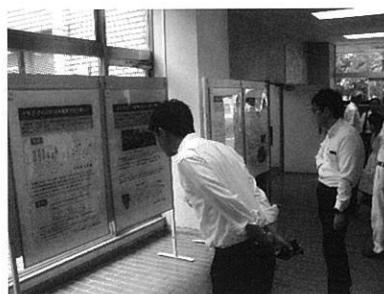
「ファインバブルの科学：目に見えない泡が拓く新しい世界」

顛末記

平成30年(2018年)12月14日(金)12:45~16:45にアクトシティ浜松 コングレスセンター 53-54会議室(静岡県浜松市中区板屋町111-1)において、「第26回静岡フォーラム・第51回研究交流セミナー」が開催されました。参加者数は76名でした(内訳:講師6名、会員35名、非会員外部20名、非会員学生(静大学生)15名)。

平成27年(2015年)にファインバブル学会連合が新たに発足するなど、多岐にわたる分野に応用できる日本発の革新的技術としてファインバブルは新しいステージに突き進んでいくことから、今回のフォーラムの主題を「ファインバブルの科学：目に見えない泡が拓く新しい世界」とし、最先端で活躍されている学術ならびに企業研究者に講演を依頼しました。

静岡化学工学懇話会 会長 金原和秀先生による開会の挨拶に引き続き、2件の招待講演と3件の依頼講演を実施しました。講演者と題目は以下の通りです。今回の講演において、①ファインバブルの基礎、②ファインバブル発生装置、③ファインバブルの計測、④ファインバブルの応用について講演されたことから、ファインバブルの可能性について理解しやすい構成になっておりました。また、外部参加者が多かったことから質疑応答が白熱し、ファインバブルの可能性について多くの議論がなされました。



招待講演1 「マイクロナノバブルの基礎とその応用の可能性」

高橋 正好 氏(東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授)

招待講演2 「超音波を利用したマイクロバブル発生技術と材料プロセスへの応用」

幕田 寿典 氏(山形大学大学院 理工学研究科 准教授)

依頼講演1 「ファインバブルアプリケーションに応じた発生機選定のポイント」

荒木 和成 氏(I DEC(株) ファインバブル事業部 部長)

依頼講演2 「動的にサイズが変化するファインバブルの分析」

入江 文子 氏(日本カンタム・デザイン(株))

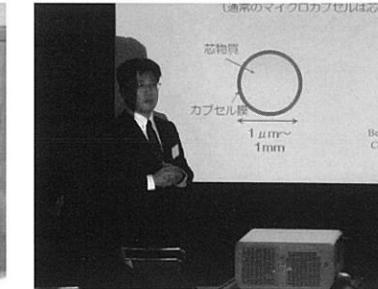
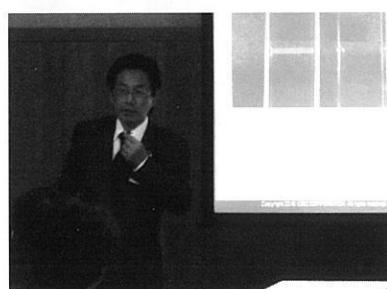
依頼講演3 「ファインバブルものづくり:クリーンかつグリーンに」

間瀬 暁之 氏(静岡大学大学院 総合科学技術研究科 教授)

最後に、閉会の挨拶において、ファインパブル学会連合理事長 寺坂宏一先生より「静岡県の皆様へ ファインパブル地方創生協議会を設立しませんか?」と熱いメッセージを頂戴しました。フォーラムが終了した後、サゴー浪漫館（アクトシティ浜松アクトプラザ5階）で情報交換が開催されました。金原会長の挨拶と乾杯のご発声の後、参加者同士の活発な情報・意見交換により、さらに交流を深めました。最後に、須藤先生のご挨拶と一本締めて、盛会の内に終了しました。

ご講演いただいた先生方、そして、ご来場いただきました皆様、さらには会場で協力してくれた学生諸氏に深く感謝申し上げます。

(文責 静岡大学 間瀬暢之)



第 25 回企業技術交流会

顛末記

平成 31 年（2019 年）2 月 26 日（火）に 13:30～17:15、静岡大学浜松キャンパス（浜松市中区城北 3-5-1）佐鳴会館において、「第 25 回企業技術交流会」が開催されました。昨年度に引き続き静岡大学の工学部学生、大学院との交流も目的としました。

学生の延べ参加者数は 48 名程度を含めて、今回の全体参加者は約 95 名でした。ブース出展企業は以下の 13 社でした。

アマノ（株）、（株）エフ・シー・シー、大川原化工機（株）、（株）大川原製作所、神谷理研（株）、ケイ・アイ化成（株）、ジェイカムアグリ（株）、新興プランテック（株）、（株）中央発明研究所、東海電子（株）、日本軽金属（株）、（株）日立プラントサービス、矢崎総業（株）

佐鳴会館会議室で木村元会長の開会挨拶のあと、各社のショートプレゼンテーションを行いました。会社の概要、業務内容、技術や展示物に関する簡単な説明など、各社の特色などをショートプレゼンテーションしていただきました。各社のプレゼンテーションの後は、沼津工業高等専門学校名誉教授蓮実文彦先生に「技術者として生きるとは—北海道で考えたこと—」という題目でご講演をしていただきました。蓮実文彦先生の専門分野は生物機能・バイオプロセス、プロセス工学であります。蓮実先生のご講演の目的の一つは、「日本（ここでは北海道）を好きになって欲しい」、「日本を守る技術者になって欲しい」、「日本で活躍して欲しい」であります。講演では、まず北海道の現在（地理、自然）、北海道の産業（現在）、北海道の歴史などについて参加した学生にお話されました。そして、北海道の課題（農業を例に）と困難な状況について詳しく説明され、その打開の可能性については、農業と「工学」との連携、つまり「農工連携」にあると力説され、その具体的打開策に関しては、例えば、将来に向けてロボット工学や AI（人工知能）による安全な作物の実現、化学・バイオによる高付加価値化、安定生産の実現、社会・農業インフラを進めるこことによる北海道の人口・就労者増加、町・村の繁栄の実現などについても言及されました。

講演会の後、会議室からホールに移って、参加各社のポスター・製品展示会が開かれました。会員同士の交流はもちろんのこと、各社のブースでは参加学生との交流も盛んであり、業務内容や製品についての様々な質問がされていました。展示会終了後、静岡大学生協の北館食堂に場所を移し、懇親会が行われました。金原会長のご挨拶と乾杯のご発声のあと、参加者たちは活発に情報・意見交換・交流を行い、親睦を深めました。また、途中、これまで長年静岡化学工学懇話会の事務担当をされました古川さん（今年度で退職されます）にお花束と記念品の贈呈も行いました。古川さん、23 年間静岡化学工学懇話会の事務担当、本当にご苦労様でした。大変ありがとうございました。最後に、金原会長によりお言葉をいただき、一本締めで終了いたしました。

ご講演をいただきました蓮実文彦先生に深く感謝を申し上げるとともに、プレゼンテーションや展示説明をしていただきました企業の方々にお礼を申し上げます。

（文責 静岡大学 孔昌一）



第54回静岡コロキウム 静岡県東部精密技術研究会第84回研究会 「水素を用いたモビリティー・分散電源に向けた エネルギーキャリア技術」顛末記



平成31年（2019年）3月18日に矢崎総業株式会社のワールドヘッドクオーターズにおいて静岡コロキウムが矢崎総業ワールドヘッドクオーターズにて開催されました。当日は雪化粧をした富士山が大変きれいに見える晴天で、会場は平成20年の静岡フォーラム「クルマの未来」でも使わせていただいた大変立派な会場でした。この企画は本懇話会と静岡県東部精密技術研究会の両主催として企画されました。

プログラムは講演会、見学会、懇親会の3部で構成されました。金原会長から開会の挨拶をいただき、蓮實先生司会により講演を3件いただきました。

1件目は「矢崎技術研究所のご紹介」と題して矢崎総業株式会社技術研究所所長の植松彰一氏より紹介いただきました。入社1年目にアドベンチャースクールとして自由なチャレンジを支援するなど人材育成にも力を入れておられました。

2件目は「次世代燃料としてのアンモニア合成について」と題して沼津高専物質工学科の稻津晃司教授より講演いただきました。エネルギー源として水素を使う水素社会に向けての取組やエネルギーキャリアとして最有力候補であるアンモニアの合成、分解について様々な角度からご講演いただきました。

3件目は「マイクロ波加熱を利用したアンモニア分解による水素製造」と題して矢崎総業株式会社技術研究所の毛利安希氏よりご講演いただきました。通常の外部加熱に比べて、マイクロ波加熱を使うことで短時間、低温でアンモニアを分解できることが講演されました。

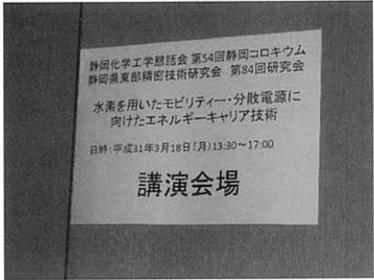
講演会の最後は岐阜大学の上宮教授にまとめていただきました。

続いて3グループに分かれて見学をしました。巨大な無電界空間で試験ができる無電界室、高度な分析装置、矢崎総業様の主力である自動車内部のワイヤーハーネスに加えてガスマーカや食品などへの展開について見学させていただきました。

懇親会は、矢崎総業Y-City内にある「はこね」にて開かれました。沼津高専の藤尾教授の挨拶の後、矢崎総業の植松所長の乾杯を合図に始まりました。矢崎総業様の展開する食品や甘酒も提供され、おいしい食事と飲み物に舌鼓を打ちました。最後は沼津高専の小林先生による中締めでお開きとなりました。

懇話会もほぼ創立30年に近いですが、静岡県東部精密技術研究会も創立30周年とのこと、お互いの情報交換を通じてさらに発展していくために今後も連携していくことが謳われました。本コロキウムを企画いただいた各位に御礼申し上げます。

（文責 静岡大学 武田和宏）



役員名簿（平成30・令和元年度（2018・2019年度））

（平成31年（2019年）4月23日現在）

<会長>

金原 和秀 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻

<副会長>

松本 豊 公益財団法人静岡産業振興協会
福原 長寿 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻

<幹事>

孔 昌一 (庶務担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
立元 雄治 (会計担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
河合 文雄 (会誌担当) 有限会社ホープ・マネジメント
武田 和宏 (HP 担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻

浅輪 智丈 日本軽金属株式会社
石黒 義昭 矢崎エナジーシステム株式会社
伊藤 拓哉 沼津工業高等専門学校 物質工学科
岩尾 康範 静岡県立大学 薬学部
上木 敏 静岡ガス株式会社
菅 公一 株式会社中央発明研究所
新谷 政己 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
竹口 昌之 沼津工業高等専門学校 物質工学科
田代 陽介 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
田中 孝彦 静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター
豊田 和弘 矢崎総業株式会社
朴 龍洙 静岡大学グリーン科学技術研究所
間瀬 暁之 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
三浦 清 静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター
鈴木 恒吉 中部ガス株式会社
脇屋 和紀 株式会社大川原製作所
渡部 紗綾 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻

<監事>

木村 元彦 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻
村松 瑞夫 村松エンジニアリング株式会社

令和元年度（2019年度）事業計画

主催行事：

(1) 役員会、総会

開催日：令和元年（2019年）6月18日（火）

会場：静岡ガス株式会社（本社）

内容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定

(2) 第55回 静岡コロキウム、見学会

開催日：令和元年（2019年）6月18日（火）

会場：静岡ガス株式会社（本社）

内容：講演2件、見学

共催：化学工学会東海支部

協賛：静岡大学食品・生物産業創出拠点

(3) 子供たちのための理科俱楽部

開催日：令和元年（2019年）8月

会場：未定

内容：体験型講演

(4) 第27回 静岡フォーラム／第52回 研究交流セミナー

開催日：令和元年（2019年）10月

会場：アクトシティ浜松 コングレスセンター

テーマ：未定

内容：講演

(5) 第26回 企業技術交流会

開催日：令和元年（2019年）12月

会 場：未定

テー マ：未定

内 容：講演、ポスター・製品展示

(6) 第56回 静岡コロキウム

開催日：令和2年（2020年）3月

会 場：未定

テー マ：未定

内 容：講演、見学

出版事業

(1) 第27号 会報発行（令和元年（2019年）6月18日）

共催・協賛・後援行事

(1) 第12回機器分析講習会

開催日：令和元年（2019年）6月14日（金）

会 場：愛知県産業労働センター（ウインク愛知）

主 催：化学工学会東海支部

(2) 第43回 基礎化学工学演習講座

開催日：第1クール：(1~3日目) 令和元年（2019年）5月22~24日（水～金）

第2クール：(4~6日目) 令和元年（2019年）5月29~31日（水～金）

第3クール：(7~9日目) 令和元年（2019年）6月19~21日（水～金）

第4クール：(10~12日目) 令和元年（2019年）7月3~5日（水～金）

第5クール：(13~15日目) 令和元年（2019年）7月17~19日（水～金）

会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

主 催：化学工学会東海支部

(3) 第6回 初歩からの化学工学数学演習講座

開催日：未定

会 場：未定

主 催：化学工学会東海支部

(4) 第53回 化学工学の進歩講習会

開催日：未定

会 場：未定

主 催：化学工学会東海支部

(5) 第51回 研究会

開催日：未定

場 所：未定

主 催：静岡大学食品・生物産業創出拠点

川研ファインケミカル株式会社

(面会者)

静岡工場長 本川 則人 氏
ファイン事業部 研究開発部 部長 菊地 和平 氏

会員企業を訪問し、事業活動の様子を取材させて頂きました。今回は、静岡県磐田市塩新田の福田工業団地内にあります川研ファインケミカル株式会社 静岡工場を訪ね、本川氏、菊地氏のお二人に事業概要や化学工学との関わりなどをお聴きしました。

1. 事業概要は

当社は、1945年10月、理学博士 川上八十太が、技術相談、受託研究を目的に、東京工業試験所開放研究室内にて創業し、同年 工場を目黒に設置しました。その後、工場を大宮・川越と移転、本社も日本橋に移転、更に福井や静岡に工場を建設するなどを経て、トータル・マーケティングを経営の理念とし、2025年には創業80周年を迎えます。

また当社は、ライフ事業部とファイン事業部の2つの事業部を核に、お客様のさまざまなご要望に的確・迅速に対応する研究・開発・製造・販売を行っています。

ライフ事業部では、安全・安心を第一とし、生活に欠くことのできない界面活性剤および、化粧品基剤を研究・開発・製造しております。また、香粧品受託製造として、化粧品・医薬部外品等の製造を四ツ葉油化（株）にて行っております。原料から製品まで一貫した生産が可能なことも大きな特長のひとつであり、天然材料を使用した製品など消費者のニーズに合わせた製品開発に取り組んでいます。

- ・界面活性剤：シャンプー、ボディーシャンプー、洗顔剤用界面活性剤、歯磨用界面活性剤、家庭用界面活性剤、工業用低起泡性界面活性剤
- ・コンディショニング基材
- ・化粧品基材：キトサン誘導体、油性基剤
- ・香粧品受託製造（化粧品・医薬部外品等）：ヘアケア製品、スキンケア製品、トイレタリー製品

ファイン事業部では、創業以来、蓄積してきた有機合成、触媒調製の技術と経験をいかし、多数のファインケミカルズをお客様に提供し続けています。また、当社の技術から生まれたユニークで機能性豊かな製品をお届けいたしております。静岡工場は豊かな自然の中にあってクリーンな設備を誇り、ファイン事業部の生産拠点として、より高度な品質管理と保証体制の強化に努めています。高圧水素化設備としてハステロイオートクレーブ等を有し、量産型GMP対応設備を整えるとともに、環境問題にも組織的に取り組んでいます。また、研究棟の新設により、さらなる業務拡充を図っています。



左から 菊地氏、本川氏

- ・触媒：スポンジニッケル、スポンジコバルト、スポンジ銅、貴金属触媒、錯体触媒
- ・受託水添：ニトリル、ニトロ、アルデヒド、脱ベンジル、芳香核他各種還元など
- ・スペシャリティケミカル：医薬バルク品、医・農薬中間体の合成、受託研究など
- ・化成品：DMEU、ジヒドロフラン、ジヒドロビラン、ピリジンメタノール、N-メチルピペラジンなど
- ・アルミナゾル：アルミゾル-10A、アルミゾル-A2、アルミゾル-CSA110AD、アルミゾル-10D、アルミゾル-F-1000など
- ・アルミニウム有機化合物：アルミニウムアルコレート、アルミニウムキレート、アルミニウム環状オリゴマーなど
- ・滑剤：ヒマシ硬化油粉末、ブチルステアレート、脂肪酸アマイドなど
- ・高分子系分散剤：分散剤KF-750、ヒノアクトKF-1000など



6,000L-SUS オートクレープ



8,000L-GL 槽

ライフ事業部	埼玉研究グループ	各種界面活性剤の合成および性能評価、香粧品の処方開発
	福井研究グループ	各種界面活性剤および化粧品基剤の開発と工業化検討
ファイン事業部	機能材料研究グループ	各種ナノ素材を利用した機能性材料、部材の開発 アルミニウム化合物、アルミナノ粒子および高分子系分散剤の研究開発
	SC研究グループ	水素化触媒・カップリング用触媒の研究開発 水添を主とした合成研究、プロセス開発
	SC技術グループ	原薬・中間体・化成品の工業化検討、工場への技術移管

2. 化学工学との関わりは如何ですか。

当社では、反応と諸々の分離・精製、蒸留や抽出、乾燥、再結晶などの操作が行われています。この静岡工場では、167名が勤務しています。そのうち研究開発部員が17名、工場要員が150名です。研究開発部員の大半が合成化学系出身者で、入社後に製造設備のことを学びます。専門のプラントエンジニアなども在籍すると良いのですが、これまであまり縁がありませんでした。危険物や水素などに関する取扱い資格も、入社後に受験し、取得しています。東海支部主催の講習会や演習講座も当社のニーズと合致するものにつきましては、参加させて戴きたいと思います。静大工学部とは触媒を含めたフロー反応について共同研究に取り組んでいます。

3. 今後の方向は如何ですか。

80周年となる2025年を見据えたイノベーション80構想のもと、グローバルに激変する時代を生き抜くために、安全性や機能性を重視したOnly-One/Number-Oneの製品開発を継続していきます。多様なユーザーニーズに対応するために、当社のコア技術や安定した高いクオリティをもとにソリューションを提案していきます。

静岡での研究開発では、フロー反応を用いるなどした新たな自社製品開発に注力していきます。これには、大学との共同研究や研究開発人材の充実にも努めます。工場では、35~36年を経て老朽化した設備もあり、これらの対応の目途をつけることも今後の大きなテーマです。



静岡工場（敷地面積 55,827m²）

同社静岡工場は、遠州灘の直近にあり、東海地震による津波などの心配をお聞きしましたところ、この付近の海底の地形により想定津波高さは30cmとのことでした。また、液状化現象も発生しない由。むしろ懸念されるのは、太田川や天竜川を遡上してくる津波の方だとのことでした。

今回は、会員企業の川研ファインケミカル株式会社 静岡工場を訪問しました。同社では理念としてトータル・マーケティングを掲げ、安全性や機能性を重視したOnly-One/Number-Oneの製品開発を目指しておられます。6年後には創業80周年を迎えるということで、自社商品の研究開発や工場設備の更新など将来に向けての基盤づくりに懸命に取り組んでおられます。今後、研究開発人材やプラントエンジニアの育成、さらに共同研究の活発化等において、当懇話会活動を大いに利用して戴きたいと思います。

今後の同社の益々のご発展をお祈り申し上げます。

リポーター 幹事 河合文雄

静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介

静岡化学工学懇話会のホームページではコロキウム、フォーラム等の各種行事の告知のほか、会報のバックナンバーの閲覧や各種行事への参加申込みが可能となっております。是非ご覧下さい。

URL : <http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/wordpress/cess/>

各行事において「関係者の方は写真をこちらに置きましたので御覧ください。」とある箇所は、以下のメール（アカウント）、およびパスワードでログインするとご覧いただけます。

メール（アカウント）：

パスワード：

懇話会事務局のメールアドレスもございます。各種行事へのお問い合わせや参加のお申込み、懇話会へのお問い合わせにご利用ください。

懇話会事務局 E-mail : cess @ cheme.eng.shizuoka.ac.jp

法人会員の皆様に本会ホームページからのリンクをお願いしております。よろしければ、事務局宛にリンク先URLをお知らせ下さい。ホームページに関するご意見やご要望などがございましたら、是非事務局宛にお知らせ下さい。

(協賛行事) 第12回機器分析講習会
①2019年3月26日 未分類 takedalab
本懇話会が協賛する第12回機器分析講習会が以下の期日、場所で開催されます。日時 2019年6月14日（金） 13:30～17:00 各コースの会場（10階）で受付します場所 愛知県産業労働センター（ウインク愛知）htt... Continue Reading »

第54回静岡コロキウムを平成31年3月18日(月)に開催しました
①2019年3月19日 未分類 takedalab
平成30年度の第54回静岡コロキウムを以下の期日に開催しました。1. 日 時 2019年3月18日（月） 13:30～19:00 2. 会場 矢崎総業株式会社 Y-City ワールドヘッドクオーターズ1F 第一ホールテ... Continue Reading »

懇話会ホームページ（トップページ画面）

（静岡大学 武田和宏）

静岡化学工学懇話会 規約

平成 25 年 7 月 12 日 改正

平成 10 年 5 月 26 日 改正

平成 4 年 7 月 29 日 懇話会発会式において制定

第1章 総則

(名 称)

第1条 本会は、公益社団法人化学工学会東海支部の静岡化学工学懇話会という。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を静岡大学工学部内、連絡事務所を沼津工業高等専門学校内におく。

(目的)

第3条 本会は、静岡県地区における化学工学並びに関連する科学技術の進歩発展に努めるとともに、会員相互の交流を深め組織的な事業推進を通じて、相互の研究開発機能を促進し、もって地域産業の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 講演会、講習会、座談会、見学会などの開催

(2) 化学工学会および諸学会・研究会等との交流

(3) 会員相互間での技術指導並びに相談の斡旋および実施

(4) 調査研究、情報の収集・提供

(5) その他目的を達成する為に必要な事業

第2章 会員

(種 別)

第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同して入会した団体または個人とする。

(入 会)

第6条 会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出しなければならない。

(会 費)

第7条 団体会員または個人会員になろうとする者は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(退 会)

第8条 会員は、退会しようとするときは、その旨を会長に届出なければならない。

(会費等の不返還)

第9条 会員がすでに納入した会費その他の拠出金品は返還しない。

第3章 役員

(役員の種別および選任)

第10条 本会に次の役員をおく。

(1) 会 長 1名

(2) 副会長 若干名

(3) 幹 事 (会長および副会長を含む) 若干名

(4) 監 事 2名

2 会長は、総会の推薦により選任し、その他の役員は総会の推薦により、会長がこれを委託する。

3 役員に準じて、名誉会員をおくことができる。名誉会員は、懇話会発展の貢献者の中から会長が委嘱する。

(役員の職務)

第11条 会長は、本会を代表し、業務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、業務を処理するとともに、会長に事故があるとき、または欠けたときは、会長があらかじめ役員会の議決を経て定めた順序により、その職務を代行する。

3 幹事は、業務を執行する。

4 監事は、会計を監査する。

5 名誉会員は懇話会の行事に参加し業務について意見を述べることができる。

(役員の任期)

第12条 役員の任期は、2年とする。但し、補欠として選任された役員の任期は前任者の残任期間とし、増員により選任された役員の任期は現任者の在任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

第4章 総会

(総会の開催)

第13条 総会は年1回開催を原則とし、会長がこれを召集する。

(総会の機能)

第14条 総会では、本会の運営に関する次の事を行う。

(1) 事業、会計の報告および承認

(2) 役員の改選

(3) その他の必要事項

2 総会の議決は、出席者の過半数をもって決する。

第5章 役員会

(役員会の構成)

第15条 役員会は、会長・副会長・幹事をもって構成する。

(役員会の機能)

第16条 役員会は次に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (2) 総会に付議すべき事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(役員会の開催)

第17条 役員会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 役員の5分の1以上から会議の目的を示して開催の請求があったとき。

(役員会の召集)

第18条 役員会は、会長が召集する。

(役員会の議長)

第19条 役員会の議長は、会長がこれにあたる。

第6章 資産、事業計画等

(資産の構成)

第20条 本会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 寄付金品
- (3) 事業に伴う収入
- (4) その他の収入

(資産の管理)

第21条 資産は、会長が管理し、その方法は会長が役員会の議決を経て定める。

(事業年度)

第22条 本会の事業年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。

第7章 雜則

(委任)

第23条 この規約の施行について必要な事項は、会長が役員会の議決を経て別に定める。

なお、規約の改正は総会の議決による。

(付則)

本規約は平成25年7月12日から施行する。

入会のご案内

静岡化学工学懇話会は平成4年に静岡県地区で産官学の交流の促進と活性化を目的に設立されました。化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の分野の交流を期待しています。

規約は前述および懇話会ホームページをご覧下さい
会費は、現在以下の様になっています。

法人会員:年額 20,000円

個人会員:年額 2,000円

但し、化学工学会の維持会員、特別会員および正会員の会費は免除する

年間の事業内容は、講演会、講習会、見学会などの事業、会員相互の技術指導・相談の斡旋、学会および研究会との交流、および調査研究、情報の収集・提供など活発な活動を計画しています。

設立の主旨および規約にご賛同して頂き、ぜひとも入会をお願い致したく、ご案内申し上げます。

申込先:

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1
静岡大学工学部化学バイオ工学科内
静岡化学工学懇話会事務局
FAX: (053) 476-0095
E-mail : cess @ cheme. eng. shizuoka. ac. jp

会費の振込先:

スルガ銀行 浜松追分支店 普通預金
口座番号 1481354
名義人 静岡化学工学懇話会

入会申込書をFAXまたは郵送にて事務局までお送り下さい。

<編集後記>

新しい時代 令和 が始まりました。直前まで、時代が変わることの実感はなかったのですが、「ゆく年くる年」ならぬ「ゆく時代くる時代」をみていくと次第に「時代が変わる」ことを実感してきました。令和になって、新年ならぬ新時代に対する何やら得体の知れない期待感が漂っています。平成4年に始まった懇話会も時代をまたぎ、新しい時代に突入しました。化学工学は昭和に生まれ、平成では絶滅危惧種に指定されましたが、令和では新たなかたちを見つけながら伝統を熟成していきたいですね。

(静岡大学 武田和宏 記)

静岡化学工学懇話会会報
<第27号>

発行／令和元年6月18日
静岡化学工学懇話会
会長 金原 和秀
〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1
静岡大学工学部化学バイオ工学科内
FAX (053) 476-0095

製作／静岡化学工学懇話会
(有)ホープ・マネジメント
TEL (053) 430-4239
FAX (053) 430-4238